

実践女子大学 2011 年度 機関報告

中俣 尚己

1. 留学生教育の報告

1. 1 学生数

交換留学生 9名 (オランダ3名 韓国1名 中国5名)

大学院生 2名 (韓国1名 リトアニア1名)

1. 2 開講科目等

韓国・中国からの交換留学生6名については、一般科目を受講している他、日本語2コマ・日本文化事情1コマを受講している。

オランダからの学生3名については、**Japanese** が7コマ(会話4, 読解3)、**English Seminar** が1コマあり、文化体験として草月流が1コマある。さらに加えて日本語のマンツーマンレッスンの時間が1コマとられている。このマンツーマンレッスンは実践女子大学の学部生・大学院生が担当している。

日本語関係科目の担当講師は3名で、いずれも非常勤講師である。教科書は国文学科の山内教授が作成したオリジナルのテキストをメインとして使用している。

2. 日本語教員養成の報告

副専攻としての日本語教員養成コースを開講しており、国文学科の学生以外でも受講できる。定められた26単位以上取得することで、副専攻として認められる。

また、大学院では5名の学生が日本語教育を専攻している。本年度から、大学院生を対象に、「Project JAPAI」¹と銘打ち、**Skype** を使ってハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで日本語を学ぶ学生に日本語を教えたり、ビデオを共同制作したりする活動を開始した。これは2010年度に京都外国語大学で中俣が共同研究者とともに開始したプロジェクトで、それを実践女子大学に引き継いだものである。当初はトラブルやうまく授業ができないという不安もあったが、回を重ねるにつれ、楽しく会話ができるようになったようである。この活動の成果については、別稿にて報告したい。